消費者としての私たちと経済

●教科書の内容をまとめよう

1　消費者問題が増えてきた背景

問1　教科書を参考にして、次の空所に適語を補いましょう。

多種多様な商品が生産されている現代では、消費者がすべての商品についての十分な情報をもてない場合が増えました。その結果、消費者が被害を受ける（　　）も多く起こるようになりました。

問2　あなたが消費者の立場にあるとすれば、あなたはどのように商品情報を得ますか。

問3　あなたが生産者の立場にあるとすれば、あなたはどのように商品情報を消費者に送りますか。

2　消費者の権利が確立するまでの過程

問1　教科書を参考にして、次の空所に適語を補いましょう。

1962年にアメリカのケネディ大統領が掲げた四つの（　　）を基本とし、日本では1968年に（　　）が制定され、さらに自立した消費者としてのあり方を求める（　　）へと発展しました。

問2　取扱説明書どおりに使っていたのに自分がけがをした、ねずみ講と思われる契約を結んでしまった、商品購入の契約を結んだが何かあやしい、など消費生活についての不安があるとき、どこに相談すればばよいですか。

3　消費者の権利を守るしくみ

問1　教科書を参考にして、次の空所に適語を補いましょう。

ＰＬ法やクーリング・オフ制度、消費者契約法などによる（　　）を守るしくみが用意されています。

問2　消費者の権利擁護を充実させるだけでなく賢い消費者となるためにどうすればよいですか。

コンビニ調査シート

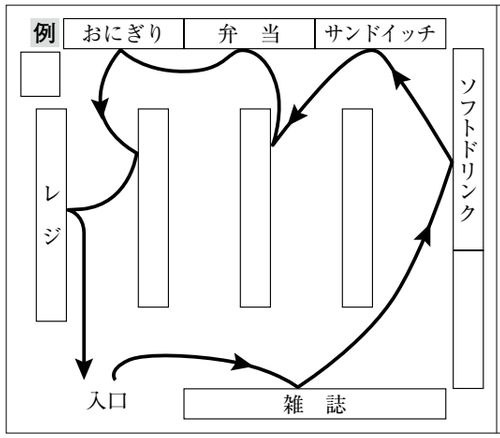
●調査　・調査対象店舗名（　　店　）
・調査日　（　　年　　月　　日　）
・天　候　（　　）
・調査員氏名　（　　）

●コンビニに行こう！―コンビニを調べる

1　実際にコンビニを調べてくふうしていると考えられる点を書きとめましょう。

2　他の人の意見でなるほどと思ったことを書きとめましょう。

3　コンビニの平面図を書いてみましょう。平面図に、入口、レジ、雑誌、弁当、サンドイッチ、おにぎり、ソフトドリンクの位置を書き込みましょう。さらに、お店に入った客がどのような動きをしてレジに至るか、動線を記入してみましょう。



●提言　調査したコンビニがさらに発展するにはどうした取り組みが必要か、提言をまとめてみましょう。

＊コンビニを調べるときは、お店の人に許可をとりましょう。また、お店の人や他のお客さまの迷惑にならないようマナーを守りましょう。

消費者としての私たちと経済　指導事例と指導上の留意点

全国公民科・社会科教育研究会授業研究委員会

■指導事例A

１時間目　教科書のまとめと経済のめざすものや経済のしくみなどについて話し合いや、先生と生徒の対話でまとめていく

a．教科書のまとめはワークシートを利用する
b．経済のめざすものを理解させる
　例・経済のめざすものは国民の幸福を高めることにあること
　　・経済のめざすものは人々の納得するくらしを実現することにあること　など
c．経済のしくみの特徴を理解させる
　例・限りある資源をどのように分配するか、その配分にはきまりが必要であること
　　・限りある資源から効率よく最大の効果を引き出すことが必要であること
　　・背景として人間相互に尊重しあう気風がある利害対立に際し、誰の利益が優先されるべきかというきまりが必要であること　など
d．宿題としてコンビニの調査をさせる（コンビニ調査シート）

２時間目　コンビニの調査に基づき、コンビニは私たちのくらしをよくしてくれるかを考える

a．コンビニのくふうに気づかせる
　例・売り上げをのばすためのくふう
　　人がたくさん通るところ、かつ時間帯により通行人数の差の少ないところに出店する　など
　　・利益を出すためのくふう
　　廃棄ロスを最小限にとどめるための在庫管理を徹底する
　　パートやアルバイトにより人件費を削減する
　　店員を教育し、顧客対応や商品管理を徹底する　など
b．客単価をあげるためのくふうに気づかせる
　　・マグネット商品を店内に散らばして配置することで顧客が店内を歩き、さまざまな商品を手に取るようにしている　など
c．授業者が、コンビニがここまで発展してきた理由を生徒から聞き出し、人々の豊かさを実現するのに貢献できたからコンビニが発展したことに気づかせ、経済のめざすものが国民の幸福を高めることにあることを生徒に理解させる。

■指導事例B

１時間目　コンビニからみえる経済社会
　事前調査　コンビニを調査する（コンビニ調査シート）
　事後のまとめ　宿題の形でワークシートを利用して教科書の内容をまとめる

a．調べてきたコンビニについてグループで話し合う
　・店がくふうしていると思えること
　・店が見落としていると思えること
b．調べてきたコンビニがさらに利益を上げるための提言をグループで話し合う
c．グループ内でａ、ｂをまとめ、クラスで報告しあう
d．授業者が、コンビニがここまで発展してきた理由を生徒から聞き出し、人々の豊かさを実現するのに貢献できたからコンビニが発展したことに気づかせ、経済のめざすものが国民の幸福を高めることにあることを生徒に理解させる。

■指導上の留意点

●教科書の内容をまとめよう

１　消費者問題が増えてきた背景

単に知識を整理するだけでなく、立場をかえることで宣伝についての評価がまったく逆転することに気づかせることも重要です。宣伝について、消費者はだまされないぞと身構え、生産者はその商品の長所を訴えようとするわけです。豊かな生活を実現したいという幸福の実現があり、そのための手立てとしての広告は消費者をだますものというとらえ方とコンパクトにまとめた商品情報というとらえ方という二つの対立する考えがあることがわかります。この二つの考えを冷静に比べることが公正です。さらに私たちは広告をどのようにとらえればよいのか考えます。それが正義を考えることになります。

２　消費者の権利が確立するまでの過程

消費者保護の手立ての具体例を知ること、消費生活センターや国民生活センターに寄せられた情報や商品テストの結果などが有効に活用されているかを調べてみることも効果的です。

３　消費者の権利を守るしくみ

消費者基本法で掲げられた「自立」がキーワードであることを確認させたいところです。自己責任と表裏の関係でもあることにも注意を促したいところです。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇コンビニ調査シート◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

いずれも正解が一つあるわけではありません。対象の冷静な観察と高校生としての確かな知識に基づく自由な発想によりまとめていく作業です。コンビニの経営がけっして生半可でできるものでないことを高校生が知ること、それ自体がキャリア教育です。

●コンビニに行こう！―コンビニを調べる

コンビニを知らない高校生はいないでしょう。仮に自分の住む地域にコンビニがなくとも旅先で入った経験はあるでしょうから、それを思い出してもらいましょう。個人で調べてそれを持ち寄りまとめてもよいですし、はじめからグループで調べに出てグループ単位で意見を発表させてもよいでしょう。大切なことは、何らかの話し合いとそれをまとめて発表させるしかけを用意しておくことです。ワークシートに自分の意見を書き込む欄だけでなく、他の人の意見や他のグループの意見を書き込む欄なども用意し、最終的な意見に至る過程を大切にさせましょう。

コンビニは小規模な店舗でも3000以上の商品を抱え、それらを漠然と並べているのではありません。商品の並べ方にどのような配慮やくふうがありそうか、理由とともに自分の意見を述べることも重視したいところです。例としては、新発売の商品を中心に定価販売、ラベルの向きを揃えて並べるとか、品切れの棚をつくらないとか、店員に雑談をさせないとか、掃除を徹底させ明るい店内を維持するなど幅広くとらえていることが大事です。

雑誌、弁当（サンドイッチやおにぎりを含む）、ソフトドリンクはマグネット商品とよばれ強い集客力を持つといわれます。雑誌を道路に面して置くことで立ち読みしている人の姿を外から見えるようにして１人でも多く店内に足を踏み入れてもらうようにします。一歩店内に入ったら店内をぐるぐる回していろいろ目新しい商品を手にとらせるようにします。ぐるぐる回すためにマグネット商品を店内各所に配置します。

●提言

これまでの調査や討論から調査店舗の活性化をはかる具体的な提案をさせましょう。経営として成り立つかどうかというより、生徒が自分なりに考え情報発信することに意味があります。

消費者としての私たちと経済　回答例

●教科書の内容をまとめよう

１　消費者問題が増えてきた背景

問１　消費者問題
問２　その商品を使っている他の消費者から意見や感想を聞く。ブログやツイッターなどで情報を集める。
問３　宣伝に力を入れて、その商品のよさを効果的に消費者に訴える。

２　消費者の権利が確立するまでの過程

問１　消費者の権利
　　消費者保護基本法
　　消費者基本法
問２　消費生活センターや国民生活センター、弁護士など。

３　消費者の権利を守るしくみ

問１　消費者の権利
問２　商品知識を十分収集し主体的に判断できる消費者になる。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇コンビニ調査シート◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

●コンビニに行こう！―コンビニを調べる

１　正解が一つあるわけではありません。一日中人通りが途切れない場所に出店している（立地）、新発売された商品を中心に置いている（品揃え）、すべての品物が正面を向いて並べてある（陳列）などどのような指摘でもかまいません。観察ができていればよいのです。

２　正解が一つあるわけではありません。１で指摘されなかった事柄を記させましょう。場合によっては３の作業とつながる内容でもよいでしょう。

３　正解が一つあるわけではありません。マグネット商品を店内で散らばして配列し、来店者が店内を歩き回りより多くの商品を手にするようになることがわかればよいでしょう。

●提言

決まった正解があるわけではありません。季節感のある装飾をとか、品揃えに欠けているものの指摘とか、店員の応対とか、広く許容しましょう。